

## 時代潮流（参考）

**（１）人口減少・少子高齢時代の到来**

- ・ 21世紀の日本は「人口減少社会」<sup>\*1</sup>。
- ・ 2025年徳島の人口は72万人と推計。県民3人に1人が高齢者の「超高齢社会」。(国立社会保障・人口問題研究所中位推計)
- ・ 今後、社会の仕組みを新たな時代に適合したものに転換することが必要。

**（２）限界があきらかになる地球の包容力**

- ・ 全地球分の「エコロジカル・フットプリント」<sup>\*2</sup>は、2001年時点で既に22%超過。
- ・ 地球の温暖化が進行。2005年に京都議定書が発効。脱温暖化が国家的課題に。
- ・ 世界の1次エネルギー<sup>\*3</sup>需要は、2030年までに66%増(2000年比)と推計(国際エネルギー機関)。国際的なエネルギー需給の逼迫が懸念されている。
- ・ 今後、人口が爆発的に増加。現在65億人の世界人口は、2025年には80億人に。(国連中位推計)
- ・ 世界的な水不足が進行中。国連では、2025年に世界人口の2/3が水不足に直面すると警告。日本人の生活を支える水の半分以上は海外に依存<sup>\*4</sup>。
- ・ 異常気象、人口爆発、水不足等があいまって中長期的に食料需給が逼迫する恐れ。

**（３）「知識経済社会」の進展**

- ・ 「工業社会から」から「知識経済社会」への構造変化が進行。価値の源泉は商品やサービスの独自性へと変化。
- ・ ICT化の進展は、「ロングテール」<sup>\*5</sup>と呼ばれる多様で小規模な商品需要も市場として成立可能に。規模の経済性は相対的に低下し、多品種少量生産の時代に。
- ・ 正規雇用者の割合が減少する一方、非正規雇用者の割合が上昇し、雇用形態の多様化が進行。また、高度・専門的な労働者に対する高賃金、定型的労働者に対する低賃金など二極化が進行し、所得格差が拡大する傾向。

**（４）塗り変わっていく世界経済地図**

- ・ 国際的なヒト、モノ、カネ、情報の取引・移動が活発化。BRICs<sup>\*6</sup>、特にアジアの台頭によりグローバル競争が激化。
- ・ 国際分業ネットワーク化が進み、実態として経済統合された東アジアビジネス圏が形成。
- ・ 2030年に中国のGDPは世界の1/3を占め米国に並ぶと予測されている(「21世紀ビジョン」グローバル化WG推計)。東アジアは「生産拠点」「市場」「投資先」として21世紀の成長センターへ。

**（５）ICT高度化がもたらす社会の劇的变化**

- ・ 国は2010年までに、日本の全世帯でブロードバンドを利用可能にするとしている。近い将来、世界最先端のネットワークインフラが整備。
- ・ これまでのICT化の進展は、ライフスタイルの本質的变化にまで及んでいない。「ユビキタスネットワーク」<sup>\*7</sup>、「web 2.0」<sup>\*8</sup>等の新潮流、放送と通信の融合等もあり、ICTの高度化は、今後暮らしや仕事を劇的に変容させる可能性。

**（６）多様・多選択社会へ**

- ・ 価値観の多様化は、家族形態、就労形態等ライフスタイル全般に広がっている。
- ・ 「経済的繁栄」よりも、「長い歴史と伝統」、「美しい自然」、「すぐれた文化や芸術」を重視する傾向<sup>\*9</sup>。日常生活の目標も「よりよく生きること」に<sup>\*10</sup>。また、地方圏への移住

や「二地域居住」<sup>\*11</sup>への志向の高まり等が見られる。

- ・家族・地域・職場の人間関係が希薄化する一方、NPOの増加やSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）<sup>\*12</sup>等の価値観や目的を共有する新たなネットワークが広がりつつある。

## （7）自立・分権型社会

- ・市町村合併が進み、道州制の議論も本格化。
- ・本ビジョンが展望する2025年頃には、道州制に移行していることが展望される。

- 
- \*1：国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口」（2002年1月）の中位推計によると、日本の人口は、今後減少局面に入り、2025年には、現在より646万人少ない、1億2,114万人に、さらに2050年には総人口が約1億人になると予測されている。
  - \*2：食料・繊維の生産、エネルギー消費による排出物の浄化、インフラ設備に必要な地球上の面積のこと。これと実際に利用できる地球上の面積（バイオキャパシティ）とを比較することで「人類が地球に要求しているもの」と「地球が提供できる能力」の関係がわかる。2001年時点ではフットプリントが2.2gha/人、バイオキャパシティが1.8gha/人（世界自然保護基金公表）。ちなみに人類全員が日本人と同じ生活をした場合は地球が2.4個、アメリカ人と同じの場合は5.3個必要。
  - \*3：石炭、原油、天然ガス等の変換や加工前のエネルギー。電気、都市ガス等は2次エネルギー。
  - \*4：モノの輸入は、その生産に必要な水の輸入でもある。日本への仮想投入水（バーチャルウォーター）は毎年640億？（国土交通省：平成16年版 日本の水資源）、日本国内の年間灌漑用水使用料590億？を上回る。
  - \*5：インターネットのオンラインショップにおける独特の商品の売れ方に関する傾向を表す言葉。特定の人気商品や注目商品だけが集中して売れるのではなく、幅広い商品が少しずつ売れるといった傾向。縦軸に販売数、横軸に売れた商品を販売数の多い順に並べたグラフを書くと、右に低く長く伸びた形を描くことから、「しっぽが非常に長い」動物を横から見たときの姿に見立てて「ロングテール」と呼ばれる。
  - \*6：経済成長が著しいブラジル、ロシア、インド、中国の英語頭文字をつなげた造語。
  - \*7：「いつでも、どこでも、誰でも、何でもアクセスが可能」なネットワーク環境
  - \*8：新しい発想に基づくインターネット等の技術やサービスの総称。その特徴は、情報や機能が制作者の手を離れて組み合わせられたり加工されたりする点や、利用者が参加して情報を出し合うことで、その蓄積が全体として巨大な「集合知」を形成するといった点。
  - \*9：内閣府 「社会意識に関する世論調査」（平成17年2月）
  - \*10：野村総合研究所の「一万人アンケート 2003」によると日常生活の目標について「経済的に豊かな生活を送ること」は32.7%、「よりよく生きること」は38.4%。
  - \*11：都市住民が農山漁村等にも生活拠点を持つこと。国土交通省では、二地域居住者は、2030年には全国で1,000万人を超えると予想。
  - \*12：友人知人等の社会的ネットワークをインターネット上で提供することを目的とするコミュニティ型のサービス。信頼性を確保するため、既存利用者からの紹介が無いと登録できない仕組みを採用していることが多い。登録者は2006年3月末で716万人。